

# パッケージを 「買う」か、 スクラッチで 「作る」か



金融機関向けの  
戦略的ガイド

# 目次

03	—————	<b>はじめに：</b> 「スクラッチ優位」思考に潜む モダナイゼーションの課題
06	—————	<b>第1章：</b> 戦略的意思決定フレームワーク
11	—————	<b>第2章：</b> ハイブリッドアプローチ
14	—————	<b>結論：</b> 金融サービスの新時代へ

はじめに：

# 「スクラッチ優位」 思考に潜む モダナイゼーション の課題

## 「スクラッチ優位」思考に潜む モダナイゼーションの課題

多くの大手銀行はいまだにスクラッチでのシステム開発を重視しており、61%が銀行システムを開発する方針を取っています。

この傾向は、独自のビジネス要件によるものというよりも、長年使い続けてきた基幹システム、特に勘定系システムへの依存や、組織的な制約によるものが大きいのが実情です。

銀行業界は「変化に鈍い」というイメージを払拭しようとしています。実際には多くの金融機関がいまだに COBOL のような 50 年以上前のプログラミング言語に依存しており、JPMorgan Chase や Visa といった大手銀行では、日々の取引の 80～95% がこの言語で処理されています。

このようなレガシーシステムへの依存は、新機能の追加や他システムとの連携をすべてカスタムで対応せざるを得ないという悪循環を生み出しています。

### なぜ勘定系システムを一気に刷新しないのか？

それは、飛行中の飛行機のエンジンを交換するようなリスクがあるからです。システムに障害が起これば、数百万件の取引が停止し、口座残高が凍結される可能性もあります。こうした背景から、「壊れていないなら直すな」という考え方が長年支持されてきました。

しかし状況は変わりつつあります。現在ではクラウドでモジュール化された柔軟なソリューションが登場し、リスクの高い全面刷新ではなく段階的なアップグレードが可能になっています。クラウド、AI、SaaS の進化により、デジタル変革のハードルは大きく下がりました。

一方、レガシーに縛られない新興のフィンテック企業は、迅速な開発力と市場対応力を武器に急成長を遂げています。彼らは新機能の導入や市場のニーズへの対応において高い機動力を発揮しており、現代のテクノロジスタックを活用することで何が可能になるかを体現しています。中には、自社のテクノロジーを「Banking-as-a-Service (BaaS)」として外部に提供し、新たな収益源を確立している企業もあります。

## 要点まとめ

従来の銀行にとって、スクラッチ開発は長らく当たり前の選択肢でした。しかし、現在はクラウドや BaaS プラットフォームが成熟し、パッケージを「買う」という選択肢が現実的かつ有力になっています。

「作るべきか、買うべきか」という判断は、もはや技術的な問題にとどまりません。組織の能力、リスク管理、そしてデジタル時代における競争力の確保といった、より広範な戦略的視点が求められます。

このような変化の中で、銀行には「スクラッチかパッケージか」を見極めるための体系的なアプローチが必要です。多くのグローバル銀行が依然としてスクラッチ開発を選ぶ傾向にあるとはいえ、すべての技術投資は個別に慎重な評価が求められます。ここで問われるのは、次のような本質的な問いです：

**「銀行は、短期的なニーズと長期的な持続可能性のバランスをどう取るべきか？」**



## 第1章：

# 戦略的意思決定 フレームワーク

## 戦略的意思決定フレームワーク

テクノロジーの近代化が急務であることは明白ですが、「スクラッチ開発」か「パッケージ購入」かの選択には、以下の3つの重要な要素を評価する必要があります：

- スピード（市場投入までの速さ）
- リソース（人材・資金）
- 戦略（競争優位性の確保）

それでは、銀行がどのようにこの判断を下しているのかを見ていきましょう。

### 1. 市場投入スピード：テクノロジーの時間的価値

正しいタイミングで製品の市場投入できるかどうかは、業界のリーダーになるか後れを取るかを左右します。Fifth Third Bank の事例はその重要性を如実に示しています。



「Fifth Third は1兆ドル規模の銀行ではなく、JPMorgan Chase のような大手と比べてIT予算は20分の1です。だからこそ私たちはスピードを重視し、“作る”よりも“買う”選択をしました。」

Jude Schramm, CIO, Fifth Third Bank

Schramm氏は、同じシステムをスクラッチ開発していたら、5倍の時間と2倍のコストがかかっていたと言います。

スクラッチ開発と nCino の法人融資ソリューション導入の比較：

# 5 倍

スクラッチ開発だった場合に  
要した時間

# 2 倍

スクラッチ開発だった場合に  
かかるコスト

# スピード

購入の意思決定：迅速な  
市場投入と対応が可能に

## 時間的価値の比較

### スクラッチ開発

数ヶ月～数年の開発期間

機能開発に時間を要す

長期間のテストが必要

行内での個別トレーニング設計が必要

段階的な展開が必要

### パッケージの購入

数週間で導入可能

すぐに機能を利用可能

事前テスト済みのソリューション

豊富なトレーニング資料

機能を一括展開可能

### 検討すべき問い：

- 新機能をどれだけ早く導入する必要があるか？
- 導入の遅れが市場に与える影響は？
- 現在の市場ポジションで開発の遅延に耐えられるか？
- テストやトレーニングも含めた全体のタイムラインを評価しているか？



## 2. リソース投資：真のコストを見極める

テクノロジー導入のコストは、初期開発費用だけではありません。

Harvard Business Review は、開発に必要な人材投資の大きさを次のように指摘しています：



「自社でコードを書くのは簡単でも安価でもありません。米国ではソフトウェアエンジニアの年収は6桁が一般的で、採用には人材紹介会社を使うことも多く、初年度年収の15～30%の手数料がかかります。」

### Harvard Business Review

#### スクラッチ開発に伴う潜在的コスト：

- 技術的負債の蓄積
- インフラ整備と環境構築
- トレーニング資料作成
- セキュリティ・コンプライアンス対応
- 災害復旧計画
- 継続的な機能改善への投資

#### 実際のコスト：

- 銀行のIT予算の70%は既存システムの維持に使われている
- Fifth Third BankのCIOによれば、法人融資システムのスクラッチ開発は2倍のコストを要する

#### 検討すべき問い：

- 初期開発費用以外の総コストを算出しているか？
- カスタム開発に必要な専門人材は社内にいるか？
- IT予算のうち、どれだけが既存システムの維持に使われているか？
- 他の戦略的投資に影響を与える可能性は？



### 3. 戦略的インパクト：コントロール vs 柔軟性

「スクラッチ開発＝コントロールしやすい」「パッケージ＝効率的」という従来の二項対立は、現代においては通用しません。

nCino はノーコード・ローコード技術を採用し、柔軟性とコントロールの両立を実現しています。ワークフローのカスタマイズ、ルールやポリシーの設定、独自機能の追加が可能であり、安定性とコンプライアンスも確保できます。

つまり、差別化に直結する領域に開発リソースを集中できるのです。

もはや、すべてのコードを自社で保有することが成功の条件ではありません。

真の競争優位は、「どこに開発投資を集中させるか」という戦略的選択にあります。レガシーシステムが基本運用の維持にリソースを消費する一方で、現代のプラットフォームはイノベーションと顧客体験の向上に集中できる環境を提供します。

このように、コントロールを維持しながらイノベーションを加速するという新たなアプローチが、次章で紹介する「ハイブリッドモデル」への道を開きます。

#### 検討すべき問い：



- どの機能が本当にカスタム開発を必要としていますか？
- サービス差別化に必要な設定範囲はどれくらいですか？
- 開発リソースは競争優位のために使えていますか？
- 標準化されたソリューションで、戦略的イノベーションにリソースを回せますか？

## 第2章：

ハイブリッドアプローチ：  
**基盤は「買う」、  
優位性は「創る」：**  
誤った二項対立を  
超えて

## 基盤は「買う」、優位性は「創る」:

### 誤った二項対立を超えて

「スクラッチ開発」か「パッケージ購入」かという従来の二者択一の考え方は、もはや現代の金融機関には適していません。今日の変化の激しい市場環境では、両者の強みを活かし、弱点を補完するより洗練されたアプローチが求められています。

最適な戦略は、基盤となる部分はパッケージ購入し、競争優位性を生む部分はスクラッチ開発するというハイブリッド型のアプローチです。これにより、両者の相乗効果が生まれます。

このハイブリッド戦略を採用することで、金融機関は市場の変化に迅速に対応できる柔軟性を獲得し、人的・技術的リソースの最適活用が可能になります。

さらに、市場投入までの時間を大幅に短縮できるため、新商品や新サービスをこれまで以上にスピーディーに展開できます。このスピードは競争力を高め、他社をリードし、市場シェアの拡大にもつながります。

そして何より、このアプローチは持続可能なイノベーションの基盤を築き、変化し続ける業界の中で継続的な成長と進化を可能にします。

### ハイブリッド導入による価値創出

これからのバンキングテクノロジーは、「作るか、買うか」ではなく、戦略的に両方を組み合わせることにあります。

**nCino プラットフォームは、このハイブリッド戦略に最適な基盤を提供します：**



実績ある  
安全な基盤



柔軟な  
設定機能



迅速な  
導入オプション



継続的な  
イノベーション支援



拡張性の高い  
アーキテクチャ

# 1

## 強固な基盤を導入する

### 実績あるプラットフォーム

- 10年以上にわたる銀行業界での実績
- 1,800以上の金融機関による導入実績

### 即時利用可能な機能群

- 一気通貫で融資業務をカバー
- リスク分析の自動化
- 文書管理、担保・契約管理など

### 高品質のインフラ

- 銀行水準のセキュリティ
- 高可用性プラットフォーム
- 災害復旧計画の整備

# 2

## 自社のニーズに合わせて適応する

### 信用ポリシーの設定

- カスタム信用ルールエンジン
- リスク評価フレームワーク

### 体験の最適化

- セグメント別ワークフロー
- パーソナライズされたダッシュボード

### シームレスな統合

- 勘定系システムとの接続
- APIファーストのアーキテクチャ

# 3

## 市場の変化に合わせて進化する

### 市場への俊敏性

- 迅速な商品ローンチ
- 短期間での市場投入

### 拡張性

- 新市場への参入
- 新たな融資ラインの展開
- クロスセルの最適化

### 将来への備え

- AI/機械学習の組み込み
- 継続的なイノベーションの実現

イノベーションの加速、リスクの最小化、競争力の強化

結論：

# 金融サービスの 新時代へ

## 結論：金融サービスの新時代へ

「スクラッチ開発」か「パッケージ購入」かという議論において、成功の鍵はどちらか一方を選ぶのではなく、両者の最良の部分を活用することにあります。

nCino を活用すれば、金融機関は業界の知見と最先端のテクノロジーにアクセスしながら、独自の競争優位性を築く柔軟性を手に入れることができます。

nCino は、人とデータをつなぎ、戦略的意思決定、リスク管理、顧客満足度の向上を支援する信頼性の高いプラットフォームを提供します。

柔軟でモジュール型の構成により、ビジネスの進化に応じて新機能をシームレスに導入可能。複数のソリューションを同時に、あるいは段階的に導入できるため、スケラブルで俊敏な体験設計が可能です。



銀行が直面する主要な課題解決のため  
複数の事業部門にわたって一貫した体験を創出



あなたの金融機関を、新たな時代へと導く準備はできていますか？

詳しくは [www.ncino.com](http://www.ncino.com) をご覧ください。

パッケージを  
「買う」か、  
スクラッチで  
「作る」か

